



JEEF NEWS LETTER 2024

寄付金活用事業 報告書



誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験を 提供するために

<基本姿勢>

現代は少子高齢化、都市化が進み、共働きやひとり親世帯の増加等、近年の社会変化の中で子どもたちが地域で様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長していく機会が減少し、体験格差も社会的な課題となっています。

頂いたご寄付は、身体的理由や経済的・地域的な理由などで、環境教育・自然体験のプログラムの参加が少ない方々への機会提供のため、以下の3本を柱とした「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」の活動に活用させていただきました。

- ・ひとり親世帯、生活困窮世帯の子どもたち、障がいをもつ子どもたちも参加できる自然体験活動・社会体験活動
- ・ストレス社会で日々頑張る大人のための癒しの機会
- ・探究の場に出る機会少ない子どもたちに楽しい学びのチャンス

皆様からのご寄付に心より感謝申し上げます。



教育の力で、環境問題を解決する。

公益社団法人

日本環境教育フォーラム

ひとり親世帯、生活困窮世帯の子どもたち、 障がいをもつ子どもたちも参加できる 自然体験活動・社会体験活動

全国の自然学校等との協働により、子どもたちの健全な成長を支える「自然体験活動」を推進しています。自然の中で過ごす時間は、子どもたちの元気や活力をとり戻し、自ら考え行動する力を育む時間になります。



〔取 り 組 み〕 奥多摩の森で過ごす ～親と子のわくわくキャンプ
(小中学生・親子)

日 時：2024年7月20日（土）～ 21日（日）

場 所：奥多摩町（東京都）

協 働：認定NPO法人アースマンシップ

ひとり親家庭を対象とした親子キャンプを開催しました。9組18名の親子をご招待し、大人にとっては子育てや仕事での忙しい日々を忘れて自然に癒されながら自分と向き合う時間、子どもにとっては自然の中で新たな発見・挑戦・成長できる時間を過ごしました。

キャンプでは、食事の準備や、料理や飲み水のための水汲み、火おこしもみんなで行います。中でも大盛り上がりだったのは、やっぱり川遊び。水源林の上流にある川はとても澄んでいて、大人も子どもも水を掛け合ったり、プカプカ浮かんだり、高い岩の上から飛び込んだり、思う存分堪能しました。

▼詳細はこちら

(保護者の声)

- 日常は忙しく、なかなか子どもとゆっくり話をする機会もなかったが、この2日間たくさん語り合うことができた。
- 同じ悩みを持つ親同士で語り合えた。





〔取 り 組 み〕 清里の森で過ごす わくわくおやこプログラム
(小学生・親子)

日 時：2024年9月7日（土）～8日（日）

場 所：清泉寮自然学校

協 働：公益財団法人キープ協会

ひとり親家庭の親子10組22名とともに、山梨県清里の森を満喫する宿泊プログラムを実施しました。親子で協力しておこした火を使ったおやつ作り、ナイトハイクで見た満天の星空、子どもだけの秘密基地づくりと大人だけののんびりした時間。“わくわく”と“チャレンジ”に溢れた2日間となりました。

ふりかえりの時間、子どもたちに「どこが楽しかった？」と聞いてみると、それぞれ「おやつ!」「ナイトハイク!」「お風呂!」「ご飯!」「秘密基地作り!」と次々に返ってきました。ひとつに答えが集まらないのは、プログラムのどの場面も子どもたちが自然を感じて、チャレンジできた証かと思います。

これを機会に今後も、自然の中で過ごす時間を取り入れてみていただくと嬉しいです。

(保護者の声)

- 夜のお散歩で草原にシートを敷いて星空を眺めた体験は、忘れられない素晴らしいひとときでした。
- 子どもが苦手だった虫に触れる様になったり、はじめての大浴場にお友達と入ったり、場所見知り与人見知りする子だったのですが、すぐにみんなと溶け込めていて、沢山の学びと成長が見られた。
- 『ママとキャンプしたことがないから一緒に行きたい。』と。親子であと何度このような経験ができるのか。そんな機会が今回持てましたことを改めて感謝申し上げます。

▼詳細はこちら





〔取 組 み〕南房総・大房岬で過ごす

～親と子のわくわく体験・海プログラム～（小学生・親子）

日 時：2024年9月22日（日）～23日（月・祝）

場 所：南房総市大房岬自然の家

協 働：NPO法人千葉自然学校

緑と海に囲まれた大房岬にて、ひとり親家庭の親子10組21名とともに、海を満喫する宿泊プログラムを実施しました。自然の中の散策に始まり、海ではSUPやカヤックに挑戦、夜にはウミホタルの観察。翌日には拾った貝殻でウィンドチャイム作りなど、盛りだくさんの2日間となりました。

親子プログラムではありますが、常に親子が一緒にいるわけではなく、子ども同士・大人同士で過ごしたり、時には親子で一緒になったり、ひとりで過ごしたりと、それぞれが自分にとってよい時間を持てることを大切に、2日間を過ごしました。

「はじめて本物の虹を見た」「親と離れて寝るのがはじめて…」とはじめての体験をたくさんした子どもたち、南房総の海を思いっきり満喫した帰りのバスは、電池切れで爆睡でした。プログラムを通して、大人も子どもも自然と親しみ、ともに体験をすることで人と人とのつながりが深まっていく時間となりました。

（保護者の声）

- 保護者同士のつながりができてよかった。
- 子どもたちに色々な体験をさせたいが、なかなかさせてあげられないので良い機会だった。
- 子どもとずっと一緒にいなくてもよいということで、大人自身も楽しめた

▼詳細はこちら





〔取 組 み〕 ウィンターキャンプ in 2025 (小学生・中学生)

日 時：2025年1月25日(土)～26日(日)

場 所：大阪府立少年自然の家(大阪府)

指導主管：大阪体育大学

大阪体育大学との協働により、ひとり親家庭の小中学生28名(22家族)を対象に1泊2日のウィンターキャンプを開催しました。キャンプでは、火起こし体験や野外炊事、ハイキングなどを実施しました。

今年で3年目を迎えるウィンターキャンプ。毎年の開催を楽しみに3年連続で参加してくれる子どもたちもあり、年々成長している姿をスタッフも実感しております。このキャンプの最大の特徴は大阪体育大学の野外活動部を中心に、学生がキャンプ・カウンセラーとしてプログラムの企画・運営をすべてになっているところです。子どもたちと年齢が近い学生だからこその笑いにこだわったプログラム作りや子どもたちとの関わり方など色々工夫しています。

また、1泊2日の期間中は保護者にとってレスパイト(一時的休養)の機会になることも狙いとして実施しています。保護者からも“久しぶりにゆっくり過ごすことができた”といった感想がありました。

(保護者の声)

- 子どもがとても楽しかったようで、たくさん話を聞かせてくれました。自然の中では子どもたちもストレス発散できるんでしょうね。
- 行く前は不安だったと思うのですが、行ったらとても楽しく過ごせて満足そうでした。(中略) 私一人ではキャンプも不安で連れて行けなかったのもとてもよい機会でした。

▼詳細はこちら





【取 組 み】 秋の大自然を満喫！キトウシ・美瑛こどもキャンプ

日 時：2024年10月19日（土）～20日（日） （小学生）

場 所：キトウシ森林公園・国立大雪青少年交流の家

共 催：NPO法人大雪山自然学校

1泊2日で、『秋の大自然を満喫！キトウシ&美瑛こどもキャンプ』を開催しました。ひとり親世帯や生活困窮世帯の子どもたち、旭川市や近郊に住む子どもたち18名が参加しました。目覚めると外は一面の雪景色！旭川の森に棲むエゾシカやヒグマといった野生動物の生態を学ぶミニゲーム、カラフルな葉っぱを集めてグラデーション作り、上手にナイフを使って、自分だけの木のスプーン&フォーク作りなどにチャレンジ。また、銀世界に包まれた森のトレッキングはいつもと違う幻想的な雰囲気でした。初めて会う仲間たちとも、アクティビティを通じて自然と仲良くなり、みんな思い思いに楽しみながら、お互いの個性を尊重しつつ楽しんでいる姿が印象的でした。また、お泊りということもあり、高学年の子が率先して低学年の子たちのベッドメイキングを手伝ってあげたりと、お兄さんお姉さんの顔をみせてくれました。

「自然の中で思いっきり遊ばせたい！」という気持ちはあっても、アウトドアの知識がなくて何をしたらいいかわからない…そんな悩みを抱えている保護者の方も多かったようです。しかしこのキャンプを通じて、子どもたちは秋の北海道の美しい自然を全身で感じ、たくさんの新しい体験ができました。

▼詳細はこちら

（保護者の声）

- コロナ禍で保育園のイベントなどが縮小され親元を離れて泊まる経験が全くなかったの で、お泊まりできた！寝られた！他のキャンプも行ける！と自信につながったようです。
- 親元を離れて、自分で色々な事を考えることを学べたと話していました。





〔取 り 組 み〕 発達凸凹自然体験教室 なないろの大冒険（小学生・親子）

日 時：2024年6月15日（土）、8月11日（日）、9月28日（土）、
2025年3月15日（土）（予定）

場 所：ホールアース自然学校、富士山麓など

協 力：NPO法人ホールアース自然学校

なないろの大冒険は発達障がい個性をとらえ、その児童と保護者が雄大な富士山麓での自然体験を通じ、相互に新たな一面に気付く機会になることを目指し、立ち上げられた活動です。自然のなかで、子ども達自身が肌で感じ考え、行動に移すことで自分自身を肯定し、自宅や学校での生活がより快適に過ごせるようになることを願い活動を続けています。2024年度は日帰りの親子向け講座4回を開催（予定含む）しました。

第1回「洞窟探検&富士山の森を歩いてみよう！」

第2回「天子ヶ岳の麓を水源とする清流稲子川でおもいっきり川遊び！」

第3回「湖でカヌー体験&湖畔で自然のガイドツアー！」

第4回「春を探して里山ウォークラリー」

（保護者の声）

- 自然に触れ遊ぶことは、普段の生活の中では感じることでできない学びがたくさんあります。参加する度に成長を感じます。また大勢のサポートの方が一緒に行動してくださり、とても安心して活動できます。スタッフの方々とも子どもの成長について話すこともできて心強いです。
- 他の人との交流やイベントは、子どもも積極的にならず、周りに気をつかうため意欲的に参加できませんでしたが、発達凸凹では、事前に子供の様子をお伝えしているスタッフの方と同じ気持ちのご家族が、温かな雰囲気ですべてをかけてくれます。そのため、親としても、その日その時の子どもの気持ちに合わせることができ、子どもの新たな一面や興味に気が付くことができる貴重な時間になっています。

▼詳細はこちら

準備中



ストレス社会で日々頑張る大人のための癒しの機会

ストレス社会で日々がんばる私たち。自分自身と会話する時間、持っていますか？『自然体験を通した環境教育（=人づくり）』を積み重ねてきた私たちは、ストレス社会に生きる大人にこそ、もっと自然に触れる時間を作ってほしいと願っています。

森という場は、SDGs・人材育成・健康・ワーケーション等多様な切り口で持続可能な社会の実現のために有効活用できる可能性を秘めています。



〔取 り 組 み〕 武蔵野の森で、秋の自然と親しんで、
ほっこりコーヒーを楽しむ会

日 時：2024年11月24日（日）

場 所：都立野川公園（東京都三鷹市・調布市ほか）

講 師：自然案内人・川上典子 さん（NACS-J 自然観察指導員 東京連絡会代表）
焚火屋さん・芦沢壮一 さん（スキルノート主宰）

ふだんは仕事で忙しいけれど、週末に秋の自然とふれあって、のんびりひと時を過ごしたいと思う大人向けの、リトリート系の自然体験イベントを開催しました。15名に参加いただき、野川公園の豊かな自然と、焚火の暖かさに心を癒された1日でした。

紅葉で色付いた武蔵野の森で散策と自然観察を楽しんだ後は、森の中で焚火を起こして、湧水のお湯でコーヒーを淹れて 味わい、森でゆったりと過ごした時間は、日頃の疲れを癒すプログラムとなりました。

（参加者の声）

- 焚き火は好きなので火をつけるところから見るのができて嬉しかったです。火の付け方や、使う木のことも知れて勉強になりとても良い経験でした。
- 毎日の散歩の中で見落としてしまうことも、植物の葉、種、実、昆虫について解説をしていただくことで、身近にある自然の豊かさや不思議さを知ることができ、とても楽しかったです。焚火は視覚、聴覚、触覚、どれも心地よく、至福の時を過ごせました。コーヒーの選定もフェアトレードしたものをご用意していただき、ありがとうございました。ココロとカラダのエネルギーをチャージできた、ひとときでした。

▼詳細はこちら



探究の場に出る機会の少ない子どもたちに楽しい学びのチャンス

小児がんなどの重い病気と闘う子どもたちや、学校に行けていない子、地域的・経済的な理由で都市の会場まで足を運べない子など、なかなか探究的な学びと出会う機会に恵まれない子どもたちがいます。

そこで、そういった子どもたちがいる場に伺い、さまざまなワークショップを実施するほか、おうちでも簡単に楽しめる実験や、その際の子どもののかかわり方などを子どものまわりにいる大人たちに伝え、おうちにいながら楽しい学びとつながる機会をつくる活動を続けています。



- 〔取 り 組 み〕 探究ワークショップキャラバン
日 時：① 2024年2月17日（土）～2月19日（月）
② 2024年6月28日（金）～30日（日）
場 所：① 沖縄県那覇市 / ② 岡山県岡山市
協 力：① ブLOSSAMジュニア 那覇奥武山教室
② NPO法人ポケットサポート

全国各地に伺って無料の探究ワークショップを提供し、学ぶことの楽しさや、外の世界に興味をもつきっかけをつくるプロジェクトです。

沖縄県では、放課後等デイサービスで、“算数ゲームを楽しむ！”というテーマでワークショップを実施しました。学習に苦手さを持つ子や、感情や動きのコントロールが難しい子もいましたが、自由に探究できる時間を過ごして「まだやりたい！」「楽しかった！」と、目を輝かせる子どもたちの姿が印象的でした。

岡山県では、病気と闘う子どもやそのきょうだい・保護者を対象に、“科学者になろう！”をテーマにしたワークショップを開催しました。オンライン・対面の両方で開催をし、体調に合わせて参加ができる形にしました。小学生～高校生まで、幅広い年代の子が関わり合いながら、実験やクラフトに自由に取り組んでいきました。子どもたちの学びへの前向きな意欲と、つながりの場の大切さを感じられるひとときとなりました。

（参加者の声）

- 小学校の授業と同じ45分間、夢中で算数を楽しめるなんて、自分でも驚いた。
- ボランティアの人も、親も、みんな一緒に参加して、みんなで考えるのが楽しかった。



人を育てる、世界を変える。



皆さまからのご寄付がこのような活動の支えとなっています。
ぜひ、継続的なご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



公益社団法人
日本環境教育フォーラム
J.E.E.F Japan Environmental Education Forum

教育の力で、環境問題を解決する。

Creating sustainable society through environmental education.



お問い合わせ先

e-mail : charity-m@jeef.or.jp TEL : 03-5834-2897

担当：総務部 中野、垂水